

山梨の歴史を知ろう

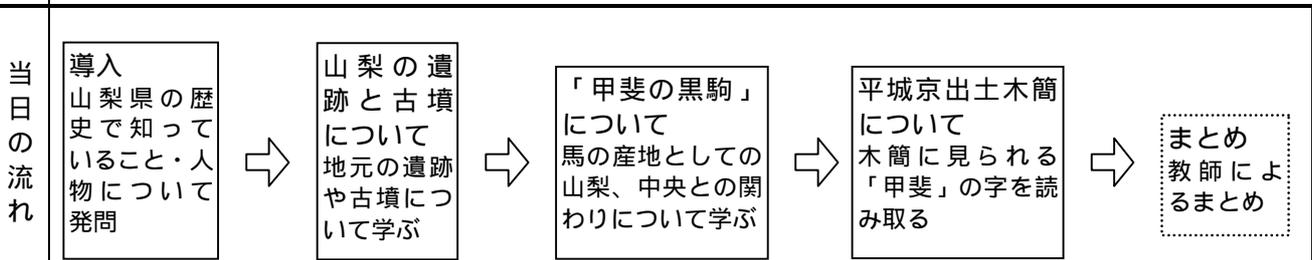
甲府市立北西中学校の1年生は、歴史的分野を学習する際、最初に「身近な地域の歴史」について学習する機会を設けている。本校の学区には加牟那塚古墳や積石塚などの古墳もあり、生徒も目にする機会はあるが、身近すぎるが故に興味を湧きにくいというのが実情である。

歴史的分野のスタートとして生徒の興味を高めるため、また広く山梨県の歴史と関連させながら身近な地域の歴史について知るため、本時の授業を計画した。

事前

本年度はじめの4月には社会科に関するアンケートを行った。まず、「社会科が好き」「どちらかといえば好き」と答えた生徒は約8割、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」が約2割であった。また、分野別に見ると歴史的分野に興味のある生徒がほとんどであった。

次に、「小学校の社会科で学習した内容」について自由に記述してもらったところ「日本の政治」や「日本の歴史」「歴史上の人物」に関する項目について答えた生徒が多かったが、山梨県の歴史については「武田信玄」や武田氏関連が圧倒的であった。



活用した展示図録の資料

県内の遺跡の写真を見せ、これらがどの地域にあるか、またどのようなものが出土しているかについて説明した。また、北西中の学区内にある古墳について紹介し、時代や特徴について説明した。



生徒に平城京から出土した木簡の写真を見せ、「甲斐」と書かれている部分を確認させた上でどのようなことが書かれているか、考えさせた。その後、木簡に書かれている内容について説明し、当時の朝廷と甲斐との関連性について考えさせた。



まず、馬の骨の写真を見せ、これが何の動物か質問した。その後これが県内の遺跡から出土した馬の骨であることや、甲斐の馬の生産について説明した。



また「甲斐の黒駒」に関する記述を紹介し、古くから甲斐の黒駒が中央でも知られていたことを説明した。



事後

授業後、生徒にアンケートを行ったところ「面白かった」「知らないことが多かった」という反応が多く、歴史的分野に対する意欲・関心を高めることができた。

また、夏休みなどを利用して実際に県立博物館を訪れたり埋蔵文化財センター主催の発掘体験に参加した生徒も見られ、身近な地域の歴史に目を向けるきっかけにもなったようである。

一言

本校の場合、行事や年間指導計画等との兼ね合いを考えると、「博物館を実際に見学して・・・」という形式での利用はなかなか難しい。そこで、今回は生徒が社会科への歴史を高め、また博物館に対しての興味を深めてもらえればと思い、常設展図録にある内容、写真と関連した内容で山梨県の歴史について授業を行った。

本年度はあくまでも「歴史の導入」という点を意識して古代に絞って実践を行った。「身近な地域」を本校近辺だけでなく、甲府市間で広げれば、来年度以降については中・近世、近現代においても博物館の資料を利用した授業を考えていきたい。 (甲府市立北西中学校 五味哲彦, 米山 真)

